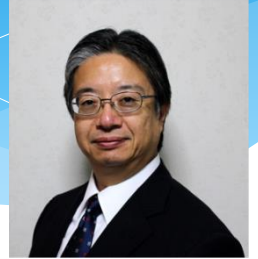


ほのぼの 横浜療育医療センター通信



横浜療育医療センター長ご挨拶

目次

| | |
|------------|-----|
| センター長ご挨拶 | 1 |
| センターリニューアル | 2 |
| 部門紹介 | 2-3 |
| お知らせ | 4 |



↑ 散歩道

皆様、こんにちは。センター長の甲斐と申します。2016年4月に着任しましたが、7月から2017年4月まで改修工事のため一時休院してまいりましたので、実質的には5月から業務に当たっています。

文字通りの駆け出し管理者ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

当センターは1988年に60床の「横浜療育園」として開所し、来年で30周年を迎えます。2003年には105床への増床と医療機能の拡充を図り、現在の名称に改称しました。この間、順調に発展を遂げてこられましたのは、歴代の職員の努力のみならず、何よりも地域の皆様、多くの福祉医療関係者の皆様のご指導、ご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

さて、駆け出し施設管理者は今、障害者を取り巻く昨今の社会の空気感を探りながら、人が幸せに生きることについて色々と思いを巡らせています。例えば、人は誰でも生まれながらに幸せな人生を歩む権利を持っていて、それは障害の有無とは関係がなく、誰もその権利を侵害することはできないとか、日々の生活をその人なりに楽しめるように支えることが私たちの使命なんだ、とか。しかし昨年の津久井の事件の後には、人は社会貢献できないなら生きている価値が無い、というような意見も聞こえてきました。

「社会貢献」という言葉にこだわるのであれば、確かにそれは人として大切なことですが、そもそも社会に貢献する方法というのは非常に多様であって、働いてお金を生み出したり、困っている人を助けたり、何かを作ったりといった直接的な行為だけではありません。ただあなたが居てくれるだけで嬉しくて、笑ってくれたらもっと幸せとを感じる人が、あなたの笑顔から沢山元気をもらって更に社会に働きかけていく、そういうことも間接的な社会貢献だと思います。人はつながりの中で誰かに影響を与えてその行動を変え、それが沢山集まることで全体が動いている、人間社会に対して私はそんなイメージを抱いています。気付いていなくても、誰もが社会に参加しているのだと思います。

昨年度、横療は大改修工事を行い、住環境や多くの設備が新しくなって生活は格段に快適になりました。しかし私たちはそれ以上に、利用者さんとの間で人と人のつながり、結びつきが生まれ、お互いに気持ちを遣り取りできることが一番の快適さだと思っています。利用者さんは職員から安らぎと心地よさを受け取り、職員も利用者さんから働く喜びと希望を受け取ることができる、そんな生き生きした施設でありたいと願っています。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

横浜療育医療センター
センター長 甲斐 純夫



社会福祉法人 十愛療育会

ロゴの意味：オキザリスの花（花ことはは、輝く心、母の優しさ、和）がモチーフです。黄色い花は障害のあるご本人を、ピンクの花は母の優しさを、左右の三つ葉は、医療と福祉を、オレンジの花は、それを包む温かい社会を意味しています。

➤ 横浜療育医療センターリニューアル

平成28年7月から大規模改修工事に伴い、入所・入院等を休止して参りましたが、此の程、無事改修工事が終了し、平成29年5月1日から業務を再開いたしましたのでお知らせいたします。

改修工事期間中、利用者ならびに関係する施設の皆様には、多大なご不便・ご負担をお掛けしましたが、内装・設備・備品等が一新された施設で、下記「理念」「基本方針」を掲げ、職員一同、より一層充実した福祉・医療サービスを提供してまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「理念」

利用者の生命・人格・尊厳を守り、実り多き人生を支えます

「基本方針」

私たち横浜療育医療センター職員は

- ・いつも笑顔でみなさまに接します
- ・利用者および家族との相互理解を深め、信頼関係を築きます
- ・専門職としての誇りを持ち、知識、技能の向上に努めます



➤ 横浜療育医療センター部門紹介

平成28年5月の再開後は従来の組織から大きく変更しております。

当センターが持つ幅広い機能を地域社会に広報し、障害児者福祉・医療に係る他施設との連携を図り、より良いサービスに努めて参ります。

・診療部門

診療科目は、小児科、内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、精神科、整形外科、障害歯科となっており、小児期発症の肢体不自由、精神遅滞、てんかんなどがある方を対象に診療を行っております。また、重症心身障害に加えて発達障害についても、診療体制の強化に努め、利用者の受入れを積極的に行います。

・診療支援部門

診療支援部門の「リハビリテーション課」は、理学療法・作業療法・音楽療法・言語聴覚・心理相談を行っております。その他に「栄養課」「検査課」「放射線課」「薬剤課」の5セクションからなっております。

新しくなった厨房です。毎日おいしい食事を提供します→



・居住支援部門

居住支援部門は看護部と生活支援部で構成されており、長期利用者と短期入所の方に安全で質の高い生活支援を提供しております。A棟30床、B棟30床、C棟45床の合計105床はリニューアル前と変わりません。また、日中活動ではリニューアルに伴い、2部屋に増やし長期、短期利用者に生活の潤いの場としてより充実した活動を提供しております。

リニューアル後の日中活動風景→



・在宅支援部門

在宅支援部門は多岐にわたる組織で「外来課」「通所課」「医療福祉相談室」「訪問看護ステーション」「居宅介護課」「病児保育室あさひ」の6部門から構成されています。各課の業務分掌は以下の通りです。



↑ 新しくなった通所スペース

外来課ではチームケアを推進して質の高い診療および看護を適切に提供し、サービスの向上を図ります。

通所課はリニューアルに伴い、明るく綺麗になったスペースを利用し利用者のチーム編成を変更し、より個別性に沿ったケアを実施していきます。

医療福祉相談室は短期入所調整、横浜市二次相談支援業務、指定特定相談、健康相談、巡回相談など当センターの最初の窓口として当センターの提供する医療、福祉サービス、他機関が提供するさまざまな福祉サービスや病気や障害に起因する生活上の心配事についてなどの相談支援を提供します。

訪問看護ステーションは病気や障がいのある方が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしい生活が過ごせるよう医師や関係機関と連携して生活をサポートします。

居宅介護課は障害者総合支援法に基づく居宅介護・移動支援サービスと、独自の自費（有料）サービスを提供しています。

病児保育室あさひは医療機関併設型病児保育で、看護師・保育士が病初期の段階から病後のお子様（生後6か月から小学校3年生まで）を対象にお預かりします。

・管理部門

管理部門は「医事課」と「管理課」で構成され、医事課では医療請求を効率よく行い、利用者への負担を少しでも軽減するために、正確な請求と分かりやすい説明を心掛けます。

管理課は長期、短期および外来利用者が安心して過ごせる施設の整備やメンテナンスの実施、センター職員の人材育成と働きやすい職場環境の提供を念頭に置き、適正な予算執行、用度調達と物品管理、防犯防災対策の拡充およびITシステムの円滑な運用を行っていきます。

以上、簡単ではありますが当センターの部門紹介を掲載致します。なお、詳細はリニューアルしたホームページをご覧ください。お願いします。

横浜療育医療センターホームページのアドレスはこちら

<http://www.jyuuiryouikukai.or.jp/yokoryo/home.html>

➤ リニューアル後の活動報告

- ① 喜寿・還暦のお祝い「おめでとうございます」
7月11日、B棟の長期利用者の喜寿・還暦のお祝いをデイルームにてセンター職員も参加し盛大に行いました。別の日には外食にも出かけ美味しいものを食べました。

② 藤塚太鼓



8月4日、多目的ホールにて藤塚太鼓さんによる演奏会が開催されました。当日は子どもから大人まで総勢10名以上のメンバーさんが来園。

リニューアルオープン後初の行事ということもあり、多くの利用者さんが参加されました。迫力あるパフォーマンス、身体に伝わる振動にいつもと違う表情の利用者さんたち。演奏の合間には、子どもたちから叩き方を教わって一緒に演奏もしました。

次回は10月に全体行事を予定しています。内容はお楽しみに！

